

1. セミナー

開催日	テーマ・演題	コーディネータ・講師
<p>平成18年 7月5日(水) 参加者 77名 W1</p>	<p>「蛋白質の修飾と機能制御」</p> <p>—演題—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒストンのメチル化修飾と高次クロマチン構造形成機構 ・MAPキナーゼシグナル伝達の制御機構と機能 ・リン酸化とアセチル化によるp53とRB蛋白質の生理機能の制御 ・DNA修復におけるユビキチン化の役割 ・オートファジーによる細胞内の大規模分解 ・神経疾患に関わる蛋白質の種々の修飾 	<p>大阪大学大学院生命機能研究科 時空生物学講座 教授 花岡 文雄 京都大学大学院生命科学研究所 統合生命科学専攻 教授 西田 栄介 —講師— 理化学研究所発生・再生科学総合研究センター チームリーダー 中山 潤一 京都大学大学院生命科学研究所 統合生命科学専攻 教授 西田 栄介 国立がんセンター研究所放射線研究部 部長 田矢 洋一 大阪大学大学院生命機能研究科 時空生物学講座 教授 花岡 文雄 東京都臨床医学総合研究所タンパク質代謝プロジェクト プロジェクトリーダー 水島 昇 京都大学大学院生命科学研究所 高次生体統制学 教授 垣塚 彰</p>
<p>9月29日(金) 参加者 88名 W2</p>	<p>「ケミカルバイオロジーが拓く21世紀の創薬研究」</p> <p>—演題—</p> <p>第一部：分子プローブによる生命情報の解析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物現象を可視化するセンサー分子開発によるケミカルバイオロジー展開 ・生体内分子科学の推進のための新しい化学 <p>第二部：分子プローブによる生命情報の制御</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報から制御へ ・遺伝子発現と細胞分化のケミカルバイオロジー <p>第三部：分子プローブから創薬への展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低分子によるリピートDNA配列の認識 ・mRNAプロセッシングを標的とする新しい抗ウイルス薬 	<p>東京医科歯科大学大学院 疾患生命科学研究所 教授 萩原 正敏 —講師— 大阪大学大学院工学研究科 生命先端工学専攻 教授 菊地 和也 岐阜大学大学院医学系研究科生命機能分子設計部門 教授 鈴木 正昭 京都大学大学院薬学研究科 薬品有機製造学 教授 藤井 信孝 京都大学化学研究所生体機能化学研究系 ケミカルバイオロジー教授 上杉 志成 大阪大学産業科学研究所精密制御化学研究分野 教授 中谷 和彦 東京医科歯科大学大学院 疾患生命科学研究所 教授 萩原 正敏</p>

<p>平成18年 10月24日(火) 参加者 97名 B19</p>	<p>ブレインサイエンスシリーズ第19回 「社会行動を司る脳の分子とエピジェネティクス —新しい人間科学をめざして」</p> <p>—演 題—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 遺伝子改変マウスの表現型解析を起点とした精神疾患の研究 ・ 脳由来神経栄養因子BDNFの機能的SNPsと精神疾患発症の関係 ・ 気分障害におけるグルココルチコイドと脳由来神経栄養因子の役割 ・ 統合失調症発症における分子メカニズム解明 ・ 双極性障害におけるミトコンドリア・小胞体機能障害 ・ 神経系細胞の分化制御とエピジェネティクス ・ 精神発達障害におけるエピジェネティクス 	<p>大阪大学大学院医学系研究科 神経機能形態学 教授 遠山 正彌 奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科細胞構造学講座 教授 塩坂 貞夫</p> <p>—講 師—</p> <p>京都大学大学院医学研究科先端領域融合医学 研究機構先端技術センター生体遺伝子機能 解析グループ 助教授 宮川 剛 産業技術総合研究所関西センター セルエンジニアリング研究部門 主任研究員 小島 正己 国立精神・神経センター神経研究所 疾病研究第三部 部長 功刀 浩 大阪大学大学院医学系研究科 神経機能形態学 助手 松崎 伸介 理化学研究所脳科学総合研究センター精神疾 患動態研究チーム グループディレクター 加藤 忠史 奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエン ス研究科分子神経分化制御学講座 教授 中島 欽一 山梨大学大学院医学工学総合研究部環境遺伝 医学講座 教授 久保田 健夫</p>
<p>11月13日(月) 参加者 89名 W3</p>	<p>「オートファジーによる細胞内自己消化—分子機 構から生理機能へ」</p> <p>—演 題—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 細胞内分解による飢餓適応と細胞内浄化 ・ オートファジーによる自己タンパク質分解の疾 病予防的役割 ・ Atgタンパク質の謎はどこまで解けたか — オ ートファゴソーム形成機構をめぐる ・ 感染症、変性疾患とオートファジー ・ オートファジー性細胞死 — 細胞死における オートファジーの役割 ・ 心臓における恒常的オートファジーの役割と心 不全発症への関与 	<p>大阪大学微生物病研究所細胞制御分野 教授 吉森 保 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 細胞生理学分野 教授 水島 昇</p> <p>—講 師—</p> <p>東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 細胞生理学分野 教授 水島 昇 順天堂大学大学院医学研究科 生化学第1講座 教授 木南 英紀 自然科学研究機構基礎生物学研究所 教授 総合研究大学院大学生命科学研究科 教授 大隅 良典 大阪大学微生物病研究所細胞制御分野 教授 吉森 保 大阪大学大学院医学系研究科神経生物学・形 態学講座 教授 内山 安男 大阪大学大学院医学系研究科循環器内科学研 究分野 助教授 大津 欣也</p>
<p>平成19年 2月27日(火) 参加者 93名 W4</p>	<p>免疫・感染症シリーズ第1回 「自己免疫疾患とその制御」</p> <p>—演 題—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己免疫病と制御性T細胞 ・ MR 1拘束性T細胞による自己免疫の制御 ・ 膠原病のポリジーンネットワーク ・ 自己免疫性皮膚疾患・天疱瘡の病態とその制御 ・ I L - 6 を標的とする関節リウマチの治療 ・ T細胞レセプター遺伝子導入による自己免疫疾 患制御 	<p>大阪大学微生物病研究所 所長・免疫不全疾 患研究分野 教授 木下 タロウ 京都大学再生医科学研究所 生体機能調節学分野 教授 坂口 志文</p> <p>—講 師—</p> <p>京都大学再生医科学研究所 生体機能調節学分野 教授 坂口 志文 国立精神・神経センター神経研究所 免疫研究部 部長 山村 隆 愛媛大学大学院医学系研究科 ゲノム病理学分野 教授 能勢 真人 慶應義塾大学医学部皮膚科学 教授 天谷 雅行 大阪大学大学院生命機能研究科 免疫制御学講座 教授 西本 憲弘 東京大学医学部アレルギー・リウマチ内科 教授 山本 一彦</p>

2. 技術講習会

開催日	テーマ・演題	コーディネータ・講師・協賛企業
第43回 平成18年 6月15日(木) 6月16日(金) 参加者 15日: 17名 16日: 12名 G43	「3色可視化細胞のライブイメージングセットアップから動画解析まで」 ー演題ー 技術解説と簡単な実習(基礎コース、15日) 1. 概論 2. LuminaVision for Macによるライブ画像の取得 3. What we can do with "volocity" for the image analyses. 4. 生きたマウス 生体内での細胞機能の直接観察 実習(応用コース、16日) 1. 3色可視化細胞のライブ観察 2. LuminaVision for Macを用いたデータ解析 3. volocityを用いた立体動画作成等	大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 教授 杉本 憲治 ー講師ー 大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 教授 杉本 憲治 大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 研究員 坂牛 真司 Improvisation Ltd. Ken Salisbury 理化学研究所免疫・アレルギー科学総合研 究センター 研究員 戸村 道夫 ー協賛企業ー 株式会社ニコンインステック オックスフォード・インストゥルメンツ株 式会社 横河電機株式会社 Chroma Technology Corp.
第44回 8月1日(火) 参加者 12名 G44	「RNAiの哺乳動物個体への応用 - RNAiトランスジェニックマウスの作製」 ー演題ー 1. 技術解説: RNAiトランスジーン構築からRNAiトランスジェニックマウスの作製に関して解説を行う。また、RNAiトランスジェニックマウスにおけるsiRNAの検出法などについても解説する。 2. 技術紹介: 基本的には参加者の実習は行わない。実験に必要な設備等の見学と、講師によるマイクロインジェクション等の実演を行う。	大阪大学微生物病研究所附属遺伝情報実験センター 教授 岡部 勝 ー講師ー 大阪大学微生物病研究所附属遺伝情報実験センター 教授 岡部 勝 大阪大学微生物病研究所附属遺伝情報実験センター 助手 蓮輪 英毅 ー協賛企業ー インビトロジェン株式会社 日本クリア株式会社
第45回 9月12日(火) 参加者 33名 G45	「新世代DNAチップが実現する新たな挑戦」 ー演題ー 技術解説 新世代DNAチップを使って何が出来るか? 原理とデータ解析の実際 実習 1. 基礎から学ぶマイクロアレイデータ解析 (アジレント/横河アナリティカルシステムズ(株)) 2. GeneChipタイリングアレイ実験のデータ解析 (アフィメトリクス・ジャパン(株))	大阪大学微生物病研究所 分子遺伝研究分野 教授 野島 博 ー講師ー 大阪大学微生物病研究所 分子遺伝研究分野 教授 野島 博 理化学研究所 岡本 晃充 三菱レイヨン(株) 横浜技術研究所 永田 祐一郎 アジレント/横河アナリティカルシステムズ(株) 室 佐和子 アフィメトリクス・ジャパン(株) 安藤 候平 加藤 哲雄 ー協賛企業ー 横河アナリティカルシステムズ株式会社 アフィメトリクス・ジャパン株式会社 三菱レイヨン株式会社

3. 新適塾

(1) 千里神経懇話会 コーディネーター: 大阪大学大学院医学系研究科 教授 遠山 正彌

開催日	テーマ・演題	オーガナイザー・講師
-----	--------	------------

<p>第76回 平成18年 5月24日(水) 参加者 64名</p>	<p>「イメージング技術を用いた生体機能の解明」</p> <p>—演 題—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蛍光イメージングで探る細胞内シグナリングの時空間的パターン ・シナプス分子の挙動を視る—安定化と動的再編成のメカニズム ・大脳皮質視覚野局所回路の神経結合特異性 	<p>奈良先端科学技術大学院大学 教授 塩坂 貞夫 助手 駒井 章治</p> <p>—講 師— 理化学研究所脳科学総合研究センター グループディレクター 宮脇 敦史 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 教授 岡部 繁男 名古屋大学環境医学研究所 助手 吉村 由美子</p>
<p>第77回 7月31日(月) 参加者 49名</p>	<p>「新たなレクチン様再生因子Reg/PAP/HIPとガレクチン」</p> <p>—演 題—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神経再生領域における新たな再生因子としてのレクチン様因子とマクロファージの関与 ・インスリン産生細胞増殖因子として見出されたReg蛋白質による再生増殖 ・酸化型ガレクチン-1によるマクロファージ制御機構と神経再生 	<p>大阪市立大学大学院医学研究科 機能細胞形態学 教授 木山 博資</p> <p>—講 師— 大阪市立大学大学院医学研究科 機能細胞形態学 教授 木山 博資 東北大学大学院医学系研究科 先端再生生命科学 教授 高沢 伸 早稲田大学先端バイオ研究所/神奈川歯科大学咬合医学研究所 堀江 秀典</p>
<p>第78回 10月3日(火) 参加者 25名</p>	<p>「タンパク質アルギニンメチル化を介した細胞機能の調節」</p> <p>—演 題—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルギニンメチル化とは—これまでに解明されたこと ・神経細胞の形態分化におけるタンパク質アルギニンメチル化の機能解析—タンパク質アルギニンメチル化酵素 (PRMT) ノックダウン細胞の解析からわかったこと ・ヒストンのメチル化修飾とエピジェネティックな遺伝子発現制御 	<p>大阪大学大学院医学系研究科 神経機能形態学 助教授 森 泰丈 助手 井上 浄</p> <p>—講 師— 大阪大学大学院医学系研究科 神経機能形態学 助教授 森 泰丈 大阪大学大学院医学系研究科 神経機能形態学 助手 宮田 信吾</p> <p>京都大学ウイルス研究所ゲノム改変マウス研究領域 教授 眞貝 洋一</p>
<p>第79回 11月7日(火) 参加者 43名</p>	<p>「発達障害仮説からみた精神疾患」</p> <p>—演 題—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母体へのpoly I:C投与が仔マウスに及ぼす影響 ・統合失調症の発達障害仮説—臨床的側面から— ・発達期の末梢サイトカイン炎症とその後の認知行動変化—統合失調症モデル動物の妥当性と限界— 	<p>奈良県立医科大学解剖学第二講座 教授 和中 明生</p> <p>—講 師— 奈良県立医科大学精神医学講座 牧野段 学 奈良県立医科大学精神医学講座 教授 岸本 年史 新潟大学脳研究所分子神経生物学分野 教授 那波 宏之</p>
<p>第80回 平成19年 2月1日(木) 参加者 33名</p>	<p>「Astrocytes/Neural stem cellsの増殖・分化に関わる因子とそのメカニズム」</p> <p>—演 題—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神経・グリア発生におけるTROYの役割 ・マウス大脳皮質発生におけるレプチンの機能 ・PACAPによる神経幹細胞からグリア細胞への誘導とその分子基盤 	<p>和歌山県立医科大学医学部解剖学第二講座 教授 仙波 恵美子</p> <p>—講 師— 和歌山県立医科大学医学部解剖学第二講座 久岡 朋子、小森 忠祐、森川 吉博 島根大学プロジェクト研究推進機構 総合科学研究支援センター 宇田川 潤 島根大学医学部解剖学講座 橋本 龍樹、八田 稔久、大谷 浩 昭和大学医学部解剖学第一講座 昭和大学ハイテクリサーチセンター 塩田 清二</p>
<p>第81回 3月19日(月) 参加者 44名</p>	<p>「ペインリサーチにおける新知見 Part 9 —痛みと脳—」</p> <p>—演 題—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下行性疼痛調整系におけるMAPK活性化 	<p>兵庫医科大学医学部解剖学第二講座 教授 野口 光一</p> <p>—講 師— 和歌山県立医科大学生理学第一 博士研究員 井辺 弘樹</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・痛みによる不快情動生成の神経機構 ・慢性痛による睡眠障害、不安惹起ならびにオピオイド精神依存不形成の分子機構 	北海道大学薬学研究院薬理学 教授 南 雅文 星薬科大学薬品毒性学 助教授 成田 年
--	--	--

(2) 21世紀の薬箱

世話人 大阪大学大学院薬学研究科教授 那須 正夫

開催日	テーマ・演題	コーディネーター・講師
第71回 平成18年 5月15日(月) 参加者 26名	「蛍光バイオイメージング」	大阪大学大学院薬学研究科 教授 那須 正夫 —講師— Robert M. Hoffman Department of Surgery, University of California, San Diego President, Chairman of Board and CEO AntiCancer, Inc.
第72回 8月10日(木) 参加者 18名	「医薬分子設計のための新しい手法— 量子化学手法及びデータマイニング手法による医 薬分子設計」 —演 題— ・量子化学計算と医薬品設計 ・最近の多変量解析・データマイニング手法とそ の医薬品科学への応用	大阪大学大学院薬学研究科 教授 高木 達也 —講 師— 京都大学大学院薬学研究科 助教授 仲西 功 大阪大学大学院薬学研究科 教授 高木 達也

4. 千里ライサイエンス市民公開講座「成人病シリーズ」

コーディネータ：国立循環器病センター名誉総長 尾前 照雄

開催日	テーマ・演題	講師
第46回 平成18年 5月13日(土) 参加者 181名	「血圧は自分でコントロールしよう」 —演 題— ・高血圧の予防と治療のための生活習慣 ・高血圧の薬物治療：病態にあわせた治療選択 ・家庭血圧による高血圧の自己管理	—講 師— 国立循環器病センター 高血圧腎臓内科 部長 河野 雄平 大阪大学医学部附属病院老年・高血圧内科 病院教授 楽木 宏実 東北大学大学院薬学・医学系(併)研究科 臨床薬学 教授 今井 潤
第47回 9月16日(土) 参加者 104名	「老年病の克服」 —演 題— ・ヒトはなぜ老化するか - 生理的老化と病的老 化 ・21世紀シニアの役割 - 定年後、カナダの教 育ボランティアの経験から ・高齢者の介護	—講 師— 国立循環器病センター 名誉総長 尾前 照雄 元先進医薬研究振興財団 理事長 松井 和弘 大分大学医学部看護学科 教授 松岡 緑
第48回 平成19年 3月10日(土) 参加者 118名	「メタボリックシンドロームについて」 —演 題— ・メタボリックシンドロームとは？—何故問題に なっているのか？ ・メタボリックシンドロームと循環器病 ・生活習慣の役割	—講 師— 大阪大学大学院医学系研究科 講師 船橋 徹 大阪大学大学院医学系研究科 教授 磯 博康 天理よろづ相談所病院 センター長 辻井 悟

5. 千里ネイチャー・カレッジ

回数/開催日	テーマ	参加者
--------	-----	-----

			生徒	指導員
第1回	平成18年 5月27日(土)	『野鳥・昆虫・植物の観察』 箕面駅→西江寺→箕面山荘→オケ原林道→オケ原口 →こもれびの森→地獄谷→桜広場→箕面駅(4.5km)	40名	34名
第2回	7月8日(土)	『サルの観察(Ⅰ)』 箕面駅⇄滝安寺⇄箕面滝⇄百年橋⇄天上ヶ谷 (サルの餌場)(往復7.5km)	38名	31名
第3回	10月22日(日)	『サルの観察(Ⅱ)& シンクスタディーと修了式』 箕面駅→滝安寺→箕面滝→大日駐車場→百年橋→ 天上ヶ谷(サルの餌場)→百年橋→大日駐車場(4km) (チャーターバスにて千里ライフサイエンスセンターへ) シンクスタディーと修了式	37名	34名

6. 千里ライフサイエンスフォーラム

開催月日	演題	講師	参加者
165回 平成18年 4月21日(金)	『大学対抗交渉コンペティションー大 学と社会を結ぶ』	大阪大学大学院国際公共政策研究科 教授 野村 美明	23名
166回 5月19日(金)	『チンドン屋からみた日本の近代化』	国際日本文化研究センター 助教授 細川 周平	28名
167回 6月23日(金)	『外から見た日本、大阪ー中国最新 事情ー』	京都外国語大学外国語学部 教授 彭 飛	40名
168回 7月28日(金)	『漂流する日本の国家戦略』	神戸大学大学院法学研究科 教授 五百簾頭 眞	132名
169回 8月25日(金)	『日本人の学術的リーダーシップの現 実ー89カ国の国際学会会長として ー』	国立民族学博物館 教授 出口 正之	30名
170回 9月19日(火)	『地球温暖化による急激な気候変動と その対策ー森林再生と炭の農業利用 ー』	大阪工業大学工学部環境工学科 客員教授 小川 眞	44名
171回 10月27日(金)	『免疫にとっての自己とは? 非自己 とは?』	大阪大学大学院 生命機能研究科・医学系研究科 教授 平野 俊夫	30名
172回 11月17日(金)	『音楽で綴る万葉集』	株式会社うたまくら 代表取締役社長 歌枕 直美	40名
173回 12月14日(木)	『ストレス:わるいストレスといいス トレス』	産業技術総合研究所ヒューマンストレスシ グナル研究センター センター長 二木 鋭雄	25名
174回 平成19年 1月19日(金)	『日本酒 心美体~見直そう伝統のチ カラ~』	大関株式会社総合研究所 所長 広常 正人	33名
175回 2月16日(金)	『クロマグロの完全養殖と将来展望』	近畿大学水産研究所 教授・所長 熊井 英水	34名
176回 3月16日(金)	『奈良学事始めー歴史と文化の再発 見』	帝塚山短期大学 名誉教授 青山 茂	23名